

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ2階
TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871

URL <http://www.af-info.or.jp>

E-MAIL post@af-info.or.jp

平成21年度 研究助成金贈呈式

6月9日午後、竣工間もない経団連会館2階の経団連ホールにおいて、関係者列席のもとに研究助成金贈呈式を開催しました。冒頭、遠藤剛選考委員長と宮島喬選考委員長から選考の経過についての説明があり、続いて瀬谷理事長が助成金受領者の方々へ贈呈状を手渡しました。

引続き、経済産業省・望月晴文事務次官のご祝辞を石黒憲彦大臣官房審議官から、また文部科学省研究振興局・磯田文雄局長のご祝辞を研究振興局学術研究助成課・山下



恭徳企画室長からいただきました。

最後に、助成金の受領者を代表して京都大学・小野輝男教授からの挨拶で式典を終え、会場を移して懇親パーティーが行われました。

本年度、国内で新規に採択された助成研究は79件、これに過年度からの継続分15件を合わせると、国内の助成総額は2億3,400万円となります。

本年度の新規助成研究は、当財団のホームページ（平成21年度採択一覧）に掲載されていますので、ご参照ください。



2009 旭硝子財団 助成研究発表会

7月15日、市ヶ谷駅前にある「ホテルグランドヒル市ヶ谷」において、本年3月に研究期間が終了した国内助成研究を主とする合計100件(全分野)の発表会を開催しました。当日は朝から夕方までの長時間にわたり、発表者をはじめ現在研究助成を受けている研究者や当財団の選考委員、ご来賓など、多くの関係者にご出席頂きました。

冒頭、瀬谷理事長の挨拶に引続き、宮島選考委員長(法政大学教授)から開催にあたっての趣旨説明があり、続いて、それぞれの分野ごとに3分間スピーチとポスターによる研究発表が行われました。

本年からは、助成期間が終了したプロジェクトだけでなく、助成金額が大きく、かつ複数年度にわたる研究助成プロジェクトについての中間発表も行われました。

それぞれのポスターの前では、専門分野の異なる研究者同士による活発な意見交換が行われ、非常に有意義な場となりました。

発表終了後には同じ会場で懇親会が開かれ、参加者全員による交歓が行われました。

ご出席者の方々、運営にご協力くださったすべての方々に、改めて感謝申し上げます。



宮島選考委員長



3分間スピーチ発表会場



瀬谷理事長



ポスター発表会場



懇親会場

海外研究助成金贈呈式 ならびに成果発表会

7月1日にタイのチュラロンコン大学において、次いで3日にインドネシアのバンドン工科大学において、研究助成金贈呈式ならびに助成研究の成果発表会を開催されました。

タイ・チュラロンコン大学

7月1日、チュラロンコン大学キャンパス内で最も由緒ある Maha Chulalongkorn Building にて、助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。瀬谷理事長からの挨拶、Pirom 学長による開催の辞に続いて、今年度の助成対象者12名に瀬谷理事長から贈呈状の授与が行われました。その後、2つのセッションに会場を分けて、合計9件の研究成果が発表されました。



成果発表会でのプレゼンテーション



助成金受領者とチュラロンコン大学関係者、旭硝子財団関係者

インドネシア・バンドン工科大学

7月3日、バンドン工科大学 (ITB) の講堂において、助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。ITB 研究渉外担当副学長の Indratno 教授、鮫島専務理事の挨拶に続いて、助成対象者11名に鮫島専務理事から贈呈状が授与されました。研究成果発表は、昨年度に採択された研究助成10件について行われました。地震災害、磁気抵抗材料、環境保護や地域開発と入会地管理、超音波による木材の非破壊検査、などの多彩な発表が行われました。



贈呈状を授与する
鮫島専務理事



冒頭の挨拶をする
Indratno 副学長



成果発表会での
プレゼンテーション



第18回ブループラネット賞 受賞者紹介

6月18日(木)、東京會館において瀬谷理事長、吉川弘之選考委員長、鮫島専務理事が、第18回地球環境国際賞「ブループラネット賞」の受賞者を発表しました。本年度の受賞者は日本学士院会員の宇沢弘文東京大学名誉教授と、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス教授のニコラス・スターン卿のお二人です。

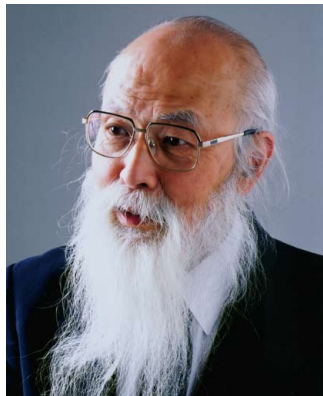
受賞者の選考は昨年6月に始まり、世界中のノミネーターから受賞候補者の推薦を頂き、選考委員会、顕彰委員会の審議を経て、本年4月の理事会・評議員会で受賞者が決定されました。



受賞者の業績と授賞理由を説明する吉川選考委員長

宇沢 弘文教授

日本学士院会員、
東京大学名誉教授



【受賞理由】

極めて早い段階から環境問題を経済学の視点から分析・提言し、地球温暖化問題などに対処する上での理論的な枠組みとして社会的共通資本の概念を提唱し、先駆的でオリジナルな業績をあげられました。

そのほか、水俣病問題や成田問題の平和的解決などにも積極的に関与し、現実社会に誠実に向き合う経済学者として一貫して活動し、現代経済や文明に対する警鐘を鳴らし続け国内的にも国際的にも大きな影響を与え続けています。

ニコラス・スターン卿

ロンドン・スクール・オブ・
エコノミクス 教授



【受賞理由】

地球温暖化の影響を科学データや経済モデルを用いて分析し、2006年に気候変動の経済的・社会的な影響とその対策をスターン・レビュー「気候変動の経済学」として報告しました。同報告が提言する対策を世界各国が協力し速やかに実施することで、将来の気候変動による巨額の損害リスクを回避・減少できることを明らかにしました。最新の科学や経済学に裏づけされた地球温暖化対策の基本的な考え方を、研究者のみならず一般の市民にまで周知したこと、また各国の政府関係者に公平性を基調とした明確な温暖化対策ポリシーを提供し、その取り組みに大きな影響を与えました。

第18回ブループラネット賞「受賞者記念講演会」ならびに「表彰式典」

第18回受賞者をお招きして、『受賞者記念講演会』を、10月19日(月)に国際連合大学ウ・タント国際会議場において、また『表彰式典』を10月21日(水)に東京會館で開催いたします。